

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372600288		
法人名	社会福祉法人稲泉会		
事業所名	グループホーム「けーせん」		
所在地	岩手県西磐井郡平泉町平泉字片岡72番地3		
自己評価作成日	平成25年11月20日	評価結果市町村受理日	平成26年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0372600288-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成25年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○地域サロンの会の会場として施設を開放、毎年7月7日のグループホームの七夕会は合同で開催し、地域住民の方々に参加して頂いている。利用者と職員が共同で作成した七夕飾りは平成19年から町役場玄関に飾ってもらっている。また、地域青年会、民生委員による草刈奉仕も定着しています。その他、利用者の方が移乗動作が低下し、車椅子利用になっても安全・快適に入浴できるよう浴室に天井走行リフトを設置し、入浴を楽しんでもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

90歳以上の元気な方も多く、それぞれの利用者に合わせて声掛けや、支援を行い、その人の持つ「力」を引き出している。地域の青年会や民生委員の事業所近辺の草取り等の奉仕活動もあり、その活動後には、利用者と食事を共にして触れ合いを持っている。七夕飾りは役場に展示し、役場を訪れる多くの方々にも観ていただきつつ、自分たちも見学に行き、事業所の認知度を高めている。浴室には天井走行リフトを設置、利用し入浴を行っている方もいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域と共に支える暮らしをめざし地域活動への参加、ホームを地域に開放し、交流を行っている。理念については玄関等に掲示する事により意識してもらっている。	年度当初に、全員で理念を確認し、日々意識付けのために、玄関、ホール、職員トイレに掲示している。日常的に業務中心がちになってしまうこともあるが、チームケア会議等において理念に立ち戻り考え、共有しケアに活かすようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々より野菜、花、果物等を頂いたり日常的な交流がある。地域青年会、民生委員の草刈奉仕作業が定着	事業所内を見ていただく機会を活かし、より地域にも開放的な事業所となるようにしている。それにより地域からも認知され、野菜の差し入れもある。また地域青年会が積極的に周囲の草刈りをしてくれたり、民生委員と合同サロンを開催するなど、交流も図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流により認知症高齢者への理解が深まり支援につながっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営、活動、利用者状況の報告を行い、参加者からの意見、助言を運営に反映させている。	運営推進会議は、民生委員、市の代表(保健センターの方)、利用者、家族、事業所代表で行われている。民生委員の方より活発に意見、提案を頂く中に、利用者の食事の内容についてのことがあり、法人の栄養士の協力も得て献立を立てるようにした。今後は防犯の話についても議題とし得るように駐在の方の出席も考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当職員と情報を共有して連携を図っています。町役場に利用者の方々で作成した七夕飾りを飾ってもらっている。	七夕飾りなど大掛かりな作品を庁舎に飾ってくれるなど、好意的に関わりが持たれている。保健センターの職員が運営推進委員で、助言や指導、情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、身体拘束についての理解を深めている。	身体拘束について、特養ホームから異動になってきた方を講師に内部での研修は行っている。車いす使用の方がおり、職員が立ち上がりを制限するような事例があったことから、一層の理解を深める必要性を感じている。	行動制限のみならず、身体拘束の正しい理解が大切であることから、今後は外部研修の受講も視野に入れ、より抑制・抑圧のないケアを目指すことを望みたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、職員間で意識付けしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム「けーせん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者はいないが制度について勉強会を開き、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分かりやすい説明と確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成・変更時の他に面会、行事の際に家族の方に意見・要望を伺っている。利用者の方々には生活の場面で意見・要望を伺っている。意見・要望を反映させるためミーティング・会議等で検討している。	利用者の直接の声は日々の生活の中で吸い上げる努力をし、家族からは、面会・行事参加時などの機会に意見や要望を伺っている。今後は毎月の誕生会に家族を招き、意見等を運営に反映させることを考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、チームケア会議の他、随時 要望があれば対応している。	職員は年齢層的に中間層がないことから、しばしば若い職員と食事・掃除・園芸作業への取り組みに意見の相違がみられる。多世代の関係構築に努め、今後のケアに活かしていけたら、と感じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の人事考課規程に基づき対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTを基本に施設内外の研修も活用し、職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム定例会、研修会への参加により情報交換を行い、交流を深めている。研修会等で学んだ事については、研修復命により職員間で共有するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用申込み、入所前面接時に本人の状況を的確に把握し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを傾聴、共感する事により信頼関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族のニーズを的確に把握し、優先順位を利用者・家族と共同で検討している。ケースによっては、他のサービスの利用の調整も検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物、散歩等は共に過ごし、料理、畑仕事等からは利用者から学ぶ姿勢で、利用者の方ができるところに着目し、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の様々な思いを受け止め、これまでの家族と利用者の関係を把握し、本人と家族の支援者になることに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室の継続利用、知人、友人との関係維持のため訪問、電話連絡を行っている。	教会での礼拝を日課としている利用者があり、信者の方が定例的に来て連れて行ってくれることで、これまでの生活習慣の継続がなされている。また、地区の敬老会に招待され、知人と旧交を温めている方もいる。事業所内でのサロン活動に地域の方々も数人訪れ、利用者と一緒に過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時々を利用者の状況に応じ、利用者同士が助けあい、支え合って暮らしていけるよう援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移った場合は、移動先に的確に情報提供を行い、状況によっては相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を共にする中で利用者の話や表情から希望、意向を汲み取るようにしている。	ご高齢で難聴の方もいるが、聞こえるように大きな声で声掛けし、なるべく直接的に本人の気持ちを汲みとるようにしている。また、連絡ノートやミーティングで利用者の状況を把握し共有して、適切な支援の向上に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	調査時、契約時に本人、家族、担当ケアマネから詳細に情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を共にし、本人のできる事、わかる事を職員全員で把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望を基本に、職員全員で意見交換、カンファレンスを行っている。	本人・家族の希望や思いを基に、介護計画を作成しているが、介護計画のモニタリングで達成度、評価を話し合っているが、計画票に明記されていない。	計画票に一連の流れが明記され、次のステップへ繋がられるように、様式の検討(見直し)を期待したい。また、センター方式の採用も一案とし、より本人本位のケアとなり得るよう望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの状況を客観的に詳細に記録し、その情報を職員全員で共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院、送迎、買い物等必要な支援に柔軟に対応している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム「けーせん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、地域の活動にも参加している。創作活動の成果を外部(役場・小学校)に展示することにより活動意欲を高めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時かかりつけ医の希望を確認している。通院は本人、家族の希望に応じて対応している。	一関市内のかかりつけ医に通院している方が多く、職員による通院介助も少なくなく、多忙を感じている。医師との情報交換は口頭のみであるので、今後は書面でより具体的な情報提供をすることを考える。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化について看護師に相談している。看護師より観察の注意ポイントが指示され、協働で利用者の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の医療機関との情報交換、家族からの情報提供の他に施設として定期的に状況確認を行い、退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針のもと本人、家族の意向を尊重し対応している。	看取りに関する指針は契約書に謳っている。現在までに特養ホームの嘱託医の協力で1名看取っている。また、看護師が配属されていないことから、重度化に伴う看取りについての勉強会も検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルを整備し、勉強会により実践力を高めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を実施している。訓練には、地域住民の方々にも参加してもらっている。	地域住民6名参加の火災訓練を実施している。地域からの声掛けで地域協定を締結した。夜間想定訓練も実施している。非常口の外の段差の解消を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で言葉使いの勉強会を実施したり、職員間で気づいた時は、その都度注意を促し改善に努めている。	人格尊重やプライバシーの保護について、勉強会等では深めるようにしているが、実践の場において徹底されていないと感じることもある。羞恥心への配慮については、入浴時に同性による介助の希望があれば、その気持ちに沿った対応としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方々の個性に合わせた声かけを行い、思いや希望を聞きとりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物、散歩、ドライブ、畑仕事、食事の手伝い、掃除等をその時の状態、思いに配慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみ美容院でのカットや買い物に出かけ自分の好みの洋服を購入してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、盛り付け、後片付け等を一緒にを行い、調理方法のアドバイスを食事に反映させている。	特養ホームの栄養士から献立作りの協力を得ている。郷土食の餅は、2年前から取り入れ、利用者に喜ばれている。食事の片づけのところで、役割として茶碗吹き等手際よく手伝われている方もいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に栄養士より献立についてアドバイスしてもらっている。食事、水分摂取状況を確認し、状況に応じてキザミ、とろみ、ゼリー等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、うがいを行ってもらっている。必要に応じて介助し、口腔ケアを行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム「けーせん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を促している。	排泄チェック表で、パターンを把握し、2時間おきに声掛けてトイレ誘導を行っている。入居時に、オムツを使用していた方でも布パンツに移行している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を食事以外に1500cc摂取してもらうようにしている。食物繊維を考慮した献立を作成している。また、毎日体操、散歩を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を確認しつつろいだ気分に入浴できるように支援している。	風呂場が狭く介助が大変なので、午前2名、午後3名の入浴となっている。毎日、入浴剤を使用し気分を変えるようにしている。リフト浴も利用しているが、当初は怖がられた利用者も現在では快適に入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人の希望にそって活動、仕事、手伝い等で過ごしてもらえるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をケースにファイルし、職員が薬の内容等について理解するようにしている。服薬確認を確実にし、本人の状態に変化が見られた場合は記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方が得意とする畑仕事、料理、裁縫等を生活に組み入れ役割を担ってもらえるよう感謝の言葉がけを忘れずに援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩、ドライブ、買い物に出かけている。本人の希望と家族の協力により外出、外泊の機会をもうけている。	散歩を兼ねて坂上にある特養ホームまで毎日、ゴミ捨てに行っている。大型スーパーへは車で出かけ、洋服や靴下、化粧品などを買い物をしてくる。近くの中尊寺にドライブしている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム「けーせん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出、買物の機会をもうけお小遣いとして使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも本人の希望により電話できるよう支援している。家族、友人との手紙のやりとりを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホールに季節の花を生けたり、季節感を味わえる作品を共同で作成し、壁面に飾っている。	ホールには、職員が飾ったクリスマスツリーや利用者が描いた絵が展示されていた。食卓の座席は利用者の希望に添って決めている。神棚は利用者の希望で設置、拝んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ホールにはテーブル席、ソファー、和室を用意し、自由に過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳部屋、フローリング使用の居室を用意して選ぶようにしている。本人の馴染みのもの、好みのものを置くようにしている。	フローリング仕様と畳の居室は基本的に利用者の選択に任せ、馴染みのものを持ち込んでいる。入居前からの習慣でテレビを寝ながら視聴している方には、そのスタイルを保ってもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には利用しやすい位置に手すりを設置し、ベットは利用者の方が動きやすい位置に配置している。		